

平成 28・29 年度武蔵野市教育課題研究開発校

【研究主題】

# 「考え 取り組み 振り返る 自ら学ぶ児童の育成」

— 体育科を中心とした単元計画の改善 —

## 千川ラーニングへの挑戦



振り返る



取り組む



考える



武蔵野市立千川小学校

# 研究構想図

- 教育基本法
- 学校教育法
- 新学習指導要領改訂のねらい
- アクティブプラン to2020

- 千川小の教育目標
- ◎よく考える子ども
  - 仲良く助け合う子ども
  - 明るく元気な子ども
  - すすんで働く子ども

- 武蔵野市
- 武蔵野市教育委員会教育目標
  - 第二期 武蔵野市学校教育計画 (平成27～31年度)

## 新学習指導要領 総則

(第1章第3の1の(1)より抜粋)

第1の3の(1)から(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

## 児童の実態

- 体を動かすことが好きな児童が多い。
- 友達と協力して学習することができる。
- 何のために学ぶかを意識して学習に対して切実性をもって取り組む児童が少ない。
- 学習にまじめに取り組むが、自分の学習を振り返り、改善しようとする意識が弱い。

## 研究主題

「考え 取り組み 振り返る 自ら学ぶ児童の育成」  
— 体育科を中心とした単元計画の改善 —

## 研究仮説

千川ラーニング（単元全体の学習の流れや学び方）を明確にし、児童がその流れを理解し学び方を身に付け、実践することができれば、自ら学ぶ児童が育つであろう。

## 各分科会の目指す児童像

### 低学年分科会

いろいろな活動を通して課題に気づき、単元全体の見通しをもって活動し、教師や友達と関わり合いながら、すすんで学ぶ児童

### 中学年分科会

自分に合った課題を選択し、単元全体の計画を立て、友達や身近な人と関わり合いながら課題を解決し、振り返りをしてすすんで学ぶ児童

### 高学年分科会

自ら課題を設定し、自分に合った計画を立て、人やものに関わりながら課題を解決し、振り返りを通して新たな課題に向かってすすんで学ぶ児童

## 千川ラーニングを支える3つの手だて

### 児童に切実性をもたせるための導入の工夫

- ・学級全体の **単元の課題の設定**
- ・切実性を高める **資料提示**
- ・学級全体で **共通体験** をし、課題を明確にする。
- ・単元や課題に関わる **前学年の取組の確認**

### 学びを深く進めるための工夫（関わり・環境）

- ・地域や専門的な **人材の活用**
- ・児童同士の **関わり方の工夫**
- ・ **場や用具の工夫** (オープンスペースの活用)
- ・課題解決や学習の成果を共有するための **ICT 機器の活用** や **掲示物の工夫**
- ・学習の進み具合が分かる **ワークシートの工夫**
- ・毎時間の **振り返りの工夫**

### 学びの質を高めるための教師の関わり

- ・ **意図的な言葉掛け** (称賛・ゆさぶり・切り返し)
- ・ **学習活動ごとのねらいの明確化**
- ・ **児童の反応の予想**
- ・ **児童のつまづきをなくす手だて**
- ・ **振り返りの視点の指導**
- ・ **自らの学び方に対する評価の工夫**

## 研究を支える日常的な取組

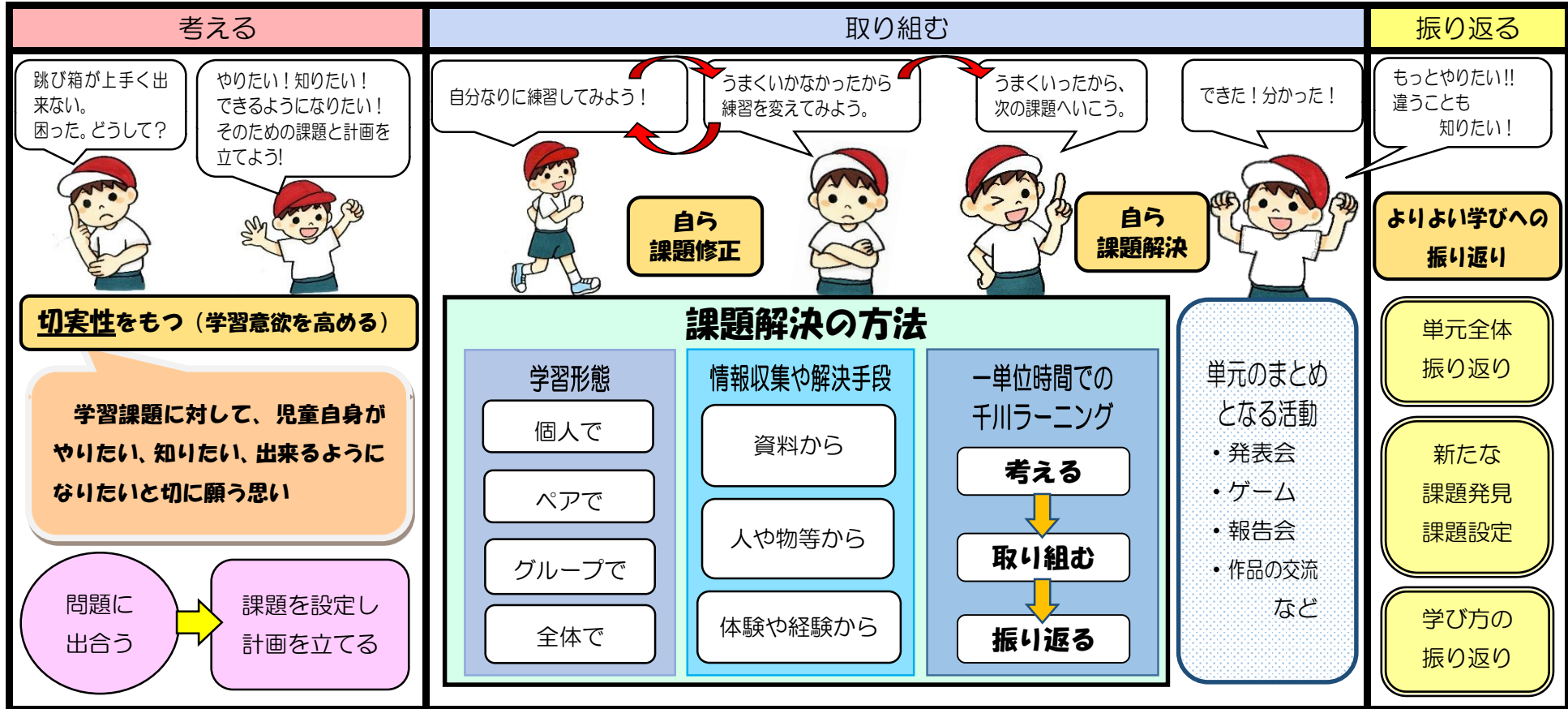
### 教師

- 体カテスト結果の活用
- オリンピック・パラリンピック教育活動の推進
- 全校で共通したノート指導

### 児童

- 100字程度の文章を書く活動
- スピーチ活動
- 話し合い活動の充実
- 運動委員会の活動（鉄棒・縄跳び検定等）

# 千川ラーニングを取り入れた単元全体での児童の活動



今後の学習へ  
千川ラーニングの定着

支える3つの手だて

**児童に切実性をもたせるための導入の工夫**

**学びを深く進めるための工夫 (関わり・環境)**

**学びの質を高めるための教師の関わり**

千川ラーニングを

# 千川ラーニング（学び方） ステップ表

千川小学校では「千川ラーニング」をどの教科でも取り入れて、単元の学習を進めています。「考える」「取り組む」「振り返る」の3つの学習過程において、それぞれ3つのステップ（段階）を示し児童の実態に応じたステップで学習を進めています。6年生までに、ステップ3の力が付くように指導しています。また、授業の中で児童が見通しをもてるように、学習過程を分かりやすく示したポスターを教室に掲示し活用しています。

- 単元の課題→単元全体を貫く全体の課題  
(例)「1年生に発表しよう」
- 単元のまとめとなる活動→単元の最後に行う学習活動  
(例)「1年生に技の発表会を行う」
- 自分の課題→単元全体を貫く一人一人の課題  
(例)「台上前転の着地を決める」
- 自分のめあて→毎時間の一人一人のめあて  
(例)「真っ直ぐ回転できるようにする」

千川ラーニングの学習過程の説明		ステップ1	ステップ2	ステップ3	
考える	①見通しをもつ	単元全体の内容を知り、学習への興味・関心をもつ。単元の課題を決め、単元のまとめとなる活動を考える。	教師と一緒にこれからの学習を理解し単元の課題や単元のまとめとなる活動を決める。 体育では (例) T (教師)「どんなことをやりたいですか。」 C (子ども)「色々な跳び方をしてみたいな。」	提示されたいくつかの中から単元の課題や単元のまとめとなる活動を選ぶ。 体育では (例) T「これからのハードル走の学習のまとめで、記録に挑戦していくのか、チームで競走するのどちらがいいかな。」	自分たちで単元の課題や単元のまとめとなる活動を話し合っ て決める。 体育では (例) C「ソフトバレーボールの学年対抗戦をして勝 ちたいな。」
	②自分の課題を決める	自分の状態を知り、単元の課題を基に単元全体の自分の課題を設定する。	提示されたいくつかの課題の中から自分が取り組みたい課題を決める。	提示されたいくつかの課題の中から自分に適した課題を決める。 ※自分の現在の能力や、興味・関心と合致しているもの	自分に適した課題を自分で決める。
	③学習計画を立てる	自分の課題を解決するための計画を立てる。	教師と一緒に学習の進め方を考える。	学習の進め方について話し合い、計画を立てる。	自分に合った学習の進め方を決め、自分で計画を立てる。
取り組む	④取り組む	計画を実践し、課題解決を行う。	家族・教師・地域の方に尋ねる。 提示された資料から自分で必要な情報を選ぶ。 友達と励ましや賞賛の声を掛け合う。 ↓ 収集した情報を基に活動に取り組む。 体育では (例)・教師が用意したカードや掲示物を見て、動き方のコツを知る。 ・友達の動きをまねて自分の動きを増やす。	身近な人に尋ねる。友達にアンケートをとる。 情報を図書資料や新聞、インターネットから集め、取捨選択する。 デジタルカメラ・タブレットで情報を集める。 ↓ 収集した情報を基に活動に取り組む。 体育では (例)・目的に応じて、教科書や副読本で動きやコツを調べる。 ・映像資料を見て、自分やチームの動きを知る。	外部機関に電話や、手紙で問い合わせる。 図書資料や新聞、インターネットから集めた情報を取捨選択し、自分の課題と関連付けて考える。 ↓ 収集した情報を基に活動に取り組む。 体育では (例)・図書資料やインターネットから得たことを自分の課題と関連付けて考える。 ・ICT機器を活用して、自分やチームの動きを知る。
			友達と自分の考えを伝え合い、いろいろな考えがあることを知る。 友達のよいところを見付ける。 体育では (例)・友達と励ましや賞賛の声掛けをする。	互いのよさや課題を伝え合う。 友達の考えを聞き、自分の考えと比べ、自分の考えを広げる。 体育では (例)・互いに動きを見合ったり、補助し合ったりして気付いたこと等を伝え合う。	よりよい解決方法について、相談したり、伝え合ったりする。 友達と自分の考えを伝え合い、よい所を取り入れ、自分の考えを深める。 体育では (例)・役割を決めてお互いを観察し合ったり、教え合ったりするなど、仲間と助け合う。
			自分の課題（1時間ごとのめあても含む）が達成できたかを振り返る。 体育では (例) C「〇〇君の回り方がよかった。次の時間にやってみよう。」	自分の課題（1時間ごとのめあても含む）が達成できたかを振り返り、次時の適切な解決方法を教師と一緒に考える。 体育では (例) C「初めの課題だった前転が上手くなったから、次は後転をうまくできるようにしよう。」	自分の課題（1時間ごとのめあても含む）が達成できたかを振り返り、よりよい解決方法を考えたり必要に応じて課題を修正したりする。それを基に、次時のめあてを考える。 体育では (例) C「私は開脚前転の足を開くタイミングをとるのが苦手だな。友達に足を開くタイミングを声掛けしてもらって練習してみよう。」
			単元のまとめとなる活動	単元のまとめとなる活動を教師と一緒にやる。	単元のまとめとなる活動を教師の助言を得ながらやる。
振り返る	⑤振り返る	学習の進め方や計画の立て方など単元全体を振り返る。	教師と一緒に課題の決め方や学習の方法を振り返る。	提示された視点を基に、自分で課題の決め方や学習の方法を振り返る。	自分で課題の決め方や学習の方法を振り返り、これからの学習に生かしたいことを考える。

## 単元の目標

- 【技能】 前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすることができるようにする。
- 【態度】 運動にすすんで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- 【思考・判断】 運動の仕方を知り、跳ぶ簡単な遊び方を工夫できるようにする。

## 単元の課題

みんながたのしい「とびっこらんど」をつくろう

## 児童に切実性をもたせるための導入の工夫

- 単元の課題の設定

## 学びを進めるための工夫（関わり・環境）

- 関わり方の工夫
- 掲示物の工夫
- 場や用具の工夫

## 学びの質を高めるための教師の関わり

- 意図的な言葉掛け

## 共通課題の設定

第1時では、前単元「走の運動遊び」で、自分たちで工夫したコースを作った経験を想起させた。試行錯誤した楽しさを児童に思い出させたことで、本単元の課題への意欲を高めた。

## 掲示物の工夫

学習の流れが視覚的に分かるよう、学習計画を掲示した。授業の始めに単元の課題や授業のめあてを確認することで、見通しをもって学習できるようにした。



## 場や用具の工夫

ビニール袋のおばけ、ゴム、ケンステップなど児童が興味をもち、すすんで活動できるよう多様な用具を用意した。



## 【単元の流れ】

- ①単元全体の内容から、単元のまとめ、課題を考え、学習計画を教師と一緒に立てる。  
自分の課題を決める。
- ②技能ポイントを学び、自分たちで遊ぶ場を工夫し、いろいろな跳び方を楽しむ。  
《ポイントタイム》  
（「遠くに」「高く」「連続して」という3つの基礎技能を確認するための時間）  
《わくわくタイム》  
（基本の場を自分たちで道具を変えたり並べ替えることができる時間）  
《お楽しみタイム》  
（自分が好きな場で好きな跳び方をすることができる時間）
- ③学習したことを基に、「とびっこらんど」をつくり、いろいろな跳び方を楽しむ。
- ④振り返りをする。

考える

取り組む

振り返る

## 関わり方の工夫

互いの動きを見合うための流れを設定した。

- 3人組で見合いながら行う。
  - 運動は一方通行で行う。
  - 出発する時の合図を出す。
- 上記3つのルールを指導し、徹底させることで安全にお互いに見合いながら活動できるようにした。



## 意図的な言葉掛け

技能ポイントを意識して跳んでいた児童や上達した児童を紹介したり、称賛したりすることで児童に活動への意欲をもたせるようにした。

- 両足着地ができたね。
  - 前より高く跳べているよ。
- など

2学期に実施する跳の運動遊びに生かしていく

## 児童の変容

- 3人組で関わり合いをもち、互いの動きを見合ったことで、前方や上方、連続して跳ぶ技能が向上した。
- 単元計画や1時間の流れを掲示し、可視化することで、「あと2時間で『とびっこらんど』だ。」「今日は、連続して跳ぼう。」など、活動の見通しやねらいがもてるようになった。
- 多様な道具を用意したことで、自ら試行錯誤して活動に取り組む児童が増えた。

## 単元の目標

- 【関・意・態】 自分の野菜の変化や成長、収穫を楽しみにしながら、意欲と親しみをもって大切に世話をしようとしている。
- 【思考・表現】 野菜の様子を見て世話の仕方を工夫したり、これまでの経験を生かしたりして栽培しようとしている。  
野菜が変化・成長したときや、野菜を収穫したときの気持ちについて表現している。
- 【気付き】 野菜も生命をもっていること、成長すること、それぞれの野菜に合った世話の仕方があるということに気付いている。  
自分たちの育てた野菜を収穫し、食べることで、食の楽しさや大切さに気付いている。

## 単元の課題

「トマトプレゼント大作戦」～お世話になっている人にトマトのよさを伝えよう～

## 児童に切実性をもたせるための導入の工夫

- ・単元の課題の設定

## 学びを進めるための工夫（関わり・環境）

- ・関わり方の工夫
- ・ワークシートの工夫

## 学びの質を高めるための教師の関わり

- ・児童のつまずきをなくす手だて

## 共通課題の設定

児童が意欲的に学習に取り組めるように、野菜を育てることでどんなことをやってみたいか考える時間を十分に設定した。

導入で出た課題は教室に掲示し、常に児童に意識させた。

## 児童のつまずきを救う手だて

トマトのよさを児童が調べられるよう、関係書籍や資料をオープンスペースに置いた。

課題解決がうまくいかない児童に対しては、個別に本や資料を紹介し、教師とともに課題解決した。

ワークシートの見取りから、教師が意図的に指名したり、価値付けたりして学びを広げた。

## 【単元の流れ】

- 考える
- ①単元全体の内容から、単元のとまとめや課題を考え、学習計画を教師とともに立てることで見通しをもつ。自分の課題を決める。
  - ②ミニトマトの苗植えの準備をする。
  - ③ミニトマトの世話をする。
  - ④トマトの栄養や、自分の知っている料理方法を伝え合うことで、野菜への親しみを深めたり、大切にしたりする。
  - ⑤ミニトマトを収穫したり、味わったりする。
  - ⑥お世話になった人や畑に感謝して、心を込めて片付けをしたり、感謝の気持ちを伝えたりする。
- 取り組む
- ⑦これまでの活動の振り返りをする。
- 振り返る

2学期に実施する秋冬野菜の栽培に生かしていく

## 関わり方の工夫

グループ学習では、互いに集めてきたトマトの情報を共有した。話す順番をあらかじめ決めて話型を示した。



その後、学級全体でトマトのよさを共有して学びを広げることができた。



## ワークシートの工夫

学習の流れや情報収集の仕方が分かるようなものにした。

また、インタビューを取り入れ保護者の協力が得られるようにした。



## 児童の変容

- 保護者にインタビューしたり、友達と情報を共有したりする活動を取り入れることで、児童がすすんで課題を解決したり、新たな知識や考えをもったりすることができた。
- 「花が咲いた。」「実ができた。」「もうすぐ食べられそう。」など、児童が今まで以上に収穫を楽しみにしながら親しみをもってミニトマトの世話をするようになり、給食で野菜をより食べるようになった。

## 単元の目標

- 【技能】 調子よく走ったり、走りながらバトンパスをしたりすることができるようにする。
- 【態度】 運動にすすんで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- 【思考・判断】 自己の能力に適した課題をもち、動きを身に付けるための活動や競走の仕方を工夫できるようにする。

## 単元の課題

チーム対抗リレーで勝とう！

## 児童に切実性をもたせるための導入の工夫

- ・単元の課題の設定
- ・前学年の取組の確認

## 学びを進めるための工夫（関わり・環境）

- ・関わり方の工夫
- ・場や用具の工夫
- ・掲示物の工夫

## 学びの質を高めるための教師の関わり

- ・意図的な言葉掛け

## 共通課題の設定

第1時で試しのリレーを行い、相手チームに勝ちたいという思いをもたせることで「チーム対抗リレーで勝とう！」という共通課題を設定することにつなげた。

## 前学年の取組の確認

2年生までに行ったかけっこやリレーの技能ポイントを確認したことで自分の課題をもたせやすくした。

## 意図的な言葉掛け

本時の技能ポイントを意識して取り組めるように、声掛けをした。また、それぞれのグループの取組を紹介したり、称賛したりすることですすんで取り組もうとする意欲をもたせるようにした。

- ・腕を大きく振って走れているね。
- ・走りながら、バトンをもらえたね。

など

## 【単元の流れ】

- ①試しのリレーを行って、「チーム対抗リレーで勝とう！」という単元の課題を立てる。
- ②課題の達成に向けて、自分の課題や学習計画を教師と一緒に立てる。
- ③かけっこ・リレーの技能ポイントを学んだり、自分の課題の達成に向けて毎時間グループごとに練習に取り組んだりする。
- 《ポイントタイム》  
(かけっこ・リレーの技能ポイントを練習する。)
- 《わくわくマスタータイム》  
(個人の課題を達成するためにチームで練習する)
- 《リレーチャレンジタイム》  
(リレーを行い、リレーを楽しんだり、ポイントに気付いたりする)
- ④チーム対抗リレーを行い、タイムの伸びを測って学習の成果を確かめる。
- ⑤振り返りをする。

考える

取り組む

振り返る

2学期に実施する走・跳の運動領域に生かしていく

## 関わり方の工夫

毎時間、グループの中でペアをつくり、自分のめあてを一つにしぼって伝え合うことで相手の動きを見たり、声掛けをしたりする視点を明確にし、活発に関わり合えるようにした。



## 場や用具の工夫

かけっこを練習する場とリレーを練習する場をつくり、自分の課題の達成に向けて取り組みやすいようにした。



## 掲示物の工夫

毎時間の導入で前時までに学習したことや児童の意見をまとめたものを提示し、本時の学習の見通しをもたせやすくした。

## 児童の変容

○単元の課題の達成に向けて、自分の課題を考えたり、全体で学習計画を立てたりすることができるようになってきた。また、グループで協力して練習に取り組み、走りながらバトンをもらうことができる児童が増えた。

## 単元の目標

- 【関・意・態】パラリンピックについて関心をもち、自分で決めた課題をすすんで調べようとしている。
- 【思考・判断】障害者スポーツの意義について、調べたことを基に自分なりの考えをもつことができる。自分の課題やその解決方法や解決の手順を選び、見通しをもって計画を立てる。
- 【技能・表現】図書資料から自分の課題に合った必要な情報を収集する。自分で調べたことを友達に分かるように工夫し、まとめている。
- 【知識・理解】パラリンピック競技の特徴を理解している。

## 単元の課題

パラリンピックについて調べたことを友達に発表しよう

## 児童に切実性をもたせるための導入の工夫

- ・資料提示
- ・共通体験

## 学びを進めるための工夫（関わり・環境）

- ・場や用具の工夫
- ・ワークシートの工夫
- ・関わり方の工夫

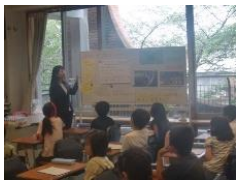
## 学びの質を高めるための教師の関わり

- ・意図的な言葉掛け

## 資料提示・共通体験

視覚障害の人の気持ちを考えることができるようにアイマスク体験を行った。

障害者スポーツの特徴（障害のある人が楽しむための工夫・全力で競い合うための工夫）に児童自ら気付くことができるように、オリンピック競技とパラリンピック競技の映像を見比べる学習を行った。



考える

## 【単元の流れ】

- ①映像資料を見たり、アイマスク体験をしたりして、パラリンピック競技の特徴に興味をもち、オリンピック競技との違い（ルールの工夫、用具の工夫、支えている人）があることに気付く。
- ②パラリンピックに関するクイズや競技の映像を見て、興味のある事柄をワークシートに整理し、自分に合った課題を決める。
- ③自分の立てた計画表を基に、自分の課題を調べる。  
（図書資料、インターネット資料等）  
毎時間調べたことをグループで伝え合い、よりよい課題解決の方法を考える。
- ④まとめたものをグループで発表し、調べて分かったことを友達と伝え合うことで自分の考えを広げる。
- ⑤振り返りをする。

取り組む

振り返る

## 場や用具の工夫

前時の学習で使用した掲示物から単元の課題を確認したり、課題を設定したりする資料として活用した。また、調べ学習に役立つ資料の情報は付箋に書いて掲示板に残すことで共有できるようにした。

## ワークシートの工夫

これまでの生活経験や本単元の学習（アイマスク体験や、映像を見る活動）での気付きを見開きで整理できるようにワークシートを工夫し、自分の興味や気付きを視覚的に捉えられるようにした。



## 関わり方の工夫

自分の課題を調べる時間の最後に毎時間、類似の課題を設定した友達と報告し合う時間を設定した。視点（調べて分かったことや気付いたこと）を明確にすることで、すすんで関わり合えるようにした。

## 意図的な言葉掛け

障害者スポーツの意義について自分なりに考えをもつことができるように、オリンピックとパラリンピックの複数の競技の共通点や相違点に目を向けさせる声掛けを行った。

- ・様々な障害の程度の人が競い合うためにはどんな工夫があるんだろうね。
- ・視覚に不自由がある人は、耳からの情報が重要なんだね。など

2学期、3学期の実施する福祉の学習に生かしていく

## 児童の変容

- ワークシートを工夫し、自分の興味や気付きを視覚的に捉えさせることで、パラリンピックについて知りたいことを自ら見付けて課題を決めることができた。
- 切実性をもたせる導入や学びの場を工夫したことで、複数の図書資料を見比べて調べたり、自分の気付きを友達と伝え合ったりするなど、すすんで学習に取り組む児童が増えた。
- 自分の調べたことを発表し合い、分かったことや気付いたことを共有させることで、自分なりの考えをもったり、パラリンピック競技の特徴について理解を深めたりすることができた。



## 単元の目標

- 【技能】 簡易化されたゲームで、チームの連携による攻撃や守備をするための動きができるようにする。
- 【態度】 運動にすすんで取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。
- 【思考・判断】 ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。

## 単元の課題

学級で協力して、1組に勝利しよう！

## 児童に切実性をもたせるための導入の工夫

- 単元の課題の設定

## 学びを進めるための工夫（関わり・環境）

- 関わり方の工夫
- 振り返りの工夫

## 学びの質を高めるための教師の関わり

- 意図的な言葉掛け

## 共通課題の設定

課題設定の話し合いの際に5月に実施した運動会の結果を想起した。そこから「運動会では負けたので、学級対抗試合で勝ちたい！」という共通の思いを確認し、児童にとって切実性のある課題を設定した。



## 児童のつまずきを救う手立て

児童が自ら学べるように、活動の中で予想されるつまずきを考え、それに対する言葉掛けを想定した。

- 他のチームも同じようなことで困っているかもしれないから、この後の振り返りで発表してみよう。

## 【単元の流れ】

考える

取り組む

振り返る

- 切実性をもって学習に取り組める学習課題を設定し、自分の課題と学習計画を立てる。
- 最初に全体でソフトバレーボールに必要な基本的な技能を学ぶ。その後のゲームタイムで、簡単なゲームを行い、ルールの工夫について話し合う。
- チームタイムで作戦を立て、それに向けた練習を行う。その後、リーグ戦を行い、チームタイムで練習したことを生かして試合を行う。
- 学級対抗ソフトバレーボール大会を行い、これまでの練習の成果を発揮する。
- 振り返りをする。

2学期に実施するゴール型ゲームに生かしていく

## 関わり方の工夫

チームでの話し合いと学級での話し合いを行い、振り返りを2段階で行った。これにより、課題を達成するための次時のよりよいめあてを立てられるようにした。



## 振り返りの工夫

授業の振り返りを児童が中心となって行うために、進行の例を図式化したワークシートを用いた。



## 児童の変容

- 振り返りの話型を用意したことで、児童中心で本時の活動を振り返ることができ、話し合った内容を生かしながら次時の学習にすすんで取り組むことができた。
- 切実性のある学習課題により、チームで作戦を行う中で仲間との連携を意識しながら動くことができた。

## 単元の目標

- 【関・意・態】 病気の予防について、関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができる。
- 【思考・判断】 病気の予防について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表すことができる。
- 【知識・理解】 病気の起こり方とその予防の方法について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解することができる。

## 単元の課題 病気の原因を知り、予防法を調べて、ポスターで知らせよう

## 児童に切実性をもたせるための導入の工夫

- ・単元の課題の設定
- ・資料提示

## 学びを進めるための工夫（関わり・環境）

- ・オープンスペースの活用
- ・掲示物の工夫
- ・人材の活用（養護教諭との連携）

## 学びの質を高めるための教師の関わり

- ・意図的な言葉掛け

## 共通課題の設定 資料の提示

単元の始めに病気で年間に亡くなる人の割合を示し、自分が病気にかかった経験を振り返ることで学級で切実性のある課題を設定することができるようにした。また、毎時間の導入で病気に関するデータをICT機器を活用して提示することで学びに対する意欲を持続することができるよう



## 意図的な言葉掛け

活動内容に応じた教師の言葉掛けを考えることで、児童がより主体的に学習に取り組めるようにした。

- ・掲示物を見て、調べる方法を選びましょう。
- ・自分が病気になったときはどうでしたか。 など

## 【単元の流れ】

- 考える
- ① 単元全体の内容から、単元のまとめ、学級と自分の課題を考え、学習計画を立てる。
  - ② 病源体や生活の仕方が原因で起こる病気を知り、予防法を調べる。
- 取り組む
- 【調べる方法】
- (1) 本や資料で調べる。
  - (2) インタビューする。
  - (3) 自分の経験を振り返る。
  - (4) 友達と相談する。
- ③ 調べたことを全体で共有する。
  - ④ 学習してきた病気の怖さや予防方法などをポスターにまとめ、家族や友達、下学年などに伝える。

- 振り返る
- ⑤ 振り返りをする。

2学期に実施する病気の予防に生かしていく。

## オープンスペースの活用

近隣の図書館や学校医の方に協力をいただき、病気に関する本や資料を集め、児童がいつでも調べることができるようにした。

また、課題解決のために選択した学習方法によって、活動する場所を教室とオープンスペースに分けた。じっくり調べたい児童と相談して考えたい児童との場所を分けることで自分にとってよりよい取り組み方を選択できるようにした。

## 掲示物の工夫

単元の課題や学習方法などを掲示することで、見通しをもって、課題を解決することができるようにした。



## 児童の変容

- 切実性のある共通課題を設定したことで、すすんで学習に取り組むことができた。また、課題解決の方法を示したことで、自分の課題をより適した方法で解決し、病気の予防法について理解を深めることができた。
- 「病気になりたくない」、「病気の予防法を家族に伝えたい」という思いをもって学習に取り組み、病気の起こり方とその予防の方法についてポスターにまとめることができた。

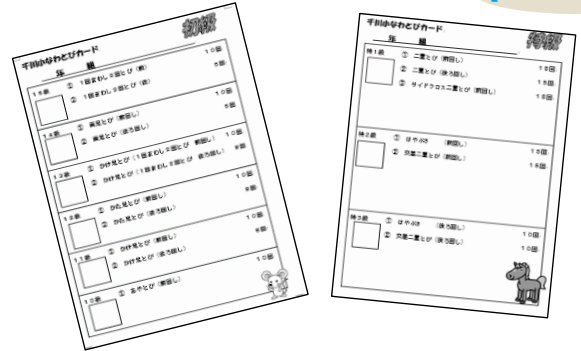
## 体力テストの結果の活用

《4年生 体力テストの記録》

男子		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20m シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ソフトボール 投げ
28年度 武蔵野市平均記録	14kg	18回	31cm	38回	44回	9.5秒	142cm	18m	
28年度 千川小最高記録	21kg	31回	57cm	52回	76回	8.1秒	180cm	36m	
29年度 千川小最高記録									
女子		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	20m シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ソフトボール 投げ
28年度 武蔵野市平均記録	13kg	17回	36cm	37回	35回	9.8秒	139cm	10m	
28年度 千川小最高記録	21kg	31回	59cm	49回	42回	8.5秒	185cm	14m	
29年度 千川小最高記録									

前年度の記録を校内に掲示  
児童が自ら目標設定

## 運動委員会による活動



鉄棒検定（2学期）や縄跳び検定（3学期）の実施

## 話し合い活動の充実



役割を決めた話し合い活動の習慣化

研究を支える  
日常的な取組

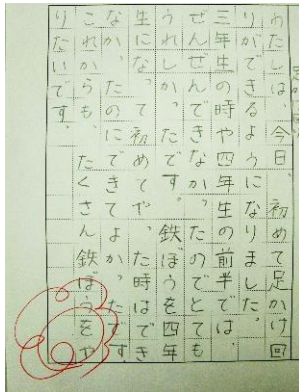


## スピーチ活動



発達段階に応じたスピーチ活動

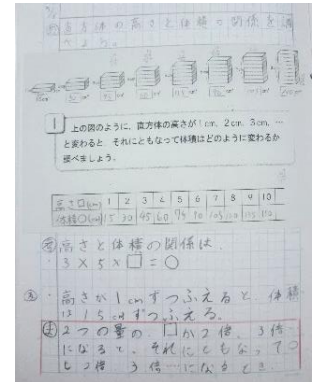
## 100字程度の文章を書く活動



各教科等の学習の振り返りなどで  
100字程の文章を書くことの習慣化

各教科・領域等で行う  
「体力向上」「言語活動の  
充実」「オリンピック・パ  
ラリンピック教育の推進」  
などの日常的な取組は、研  
究を進める上で、大きな支  
えとなっています。

## 共通したノート指導



基本的なノートの書き方を  
どの学年でも共通指導

## オリンピック・パラリンピック教育の推進



オリンピック・パラリンピック  
関連の掲示物



アスリートによる授業



## 研究の成果と課題

### 研究の成果



- 「考える 取り組む 振り返る」の学習過程のうち「考える」過程において、単元の課題を決めたり、学習計画を立てたりすることを重視することで、児童自ら見通しをもって学習に取り組めるようになってきた。また、児童が学習への切実性をもつような問題に出合わせることで、体育の学習に苦手意識を感じていた児童も授業を楽しみにする様子が見られるようになり、課題解決への意欲持続につながった。
- 学習過程の「取り組む」過程において、意図的な交流や振り返りをする中で、児童が「学び合い」の大切さを実感した。体育科の学習では、児童が互いの動きをよく観察し合うようになり、プラスの言葉掛けが増えた。
- 本校児童2～6年生対象に「学び方」の意識調査を4月当初と7月末に実施した。(4月→7月)
  - ①学級全体の単元の課題を「先生と一緒に皆で考える+自分たちで考える」と回答 73%→90%
  - ②学習計画を「いくつかの方法から自分で選んで立てた+全て自分で立てた」と回答 62%→82%
  - ③自分の課題決定を「自分に合った課題を自分で選ぶ」と回答 47%→57%「自ら学ぶ」という意識の向上が見られる結果となった。
- 「千川ラーニング」で学習の流れを理解し、児童の実態に応じたステップで学習を進めることで、すすんで課題解決に取り組むようになってきた。体育科の学習では、積極的に図書資料で運動の動きを調べる、休み時間に自主的に練習したりゲームの作戦を集まって相談したりする等の様子が増えた。



### 研究の課題



- 児童が学習の流れを理解することで、「千川ラーニング」の定着につながった。今後は、「千川ラーニング」の各ステップそれぞれの内容を、児童が十分に理解して学習を進めるようにしていきたい。
- 児童の意欲を持続させ、学びを深めていくためのゆさぶりや切り返しの声掛けが有効であることが分かった。今後は、どのような意図的な声掛けが効果的か、整理し明らかにする必要がある。
- 学習過程の「振り返る」過程において、児童が単元全体の学びを振り返るために、「振り返りシート」などを使用したが、新たな課題発見・課題設定をしたり次の学習に生かしたりしていけるように、さらに効果的な方法を考えていく必要がある。
- 教師が意図的に「学び合い」を組み入れていたが、学習計画を立てる際、児童が自分たちで学習計画の中に「学び合い」を設定することができるように支援していく。

## 【おわりに】



副校長 小澤 香子

「今日は、発表会をするんだ。」「次は、インタビューしてみよう。」「この方法を試してみたいな。」  
2年間の研究と実践をとおして、以前よりも見通しをもって意欲的に学習に取り組む児童の姿が見られるようになりました。

教職員も「自ら学ぶ児童の育成」という課題に切実性をもって取り組みました。研究内容についての話し合いや指導案の検討を進める中で、新たな問いをもち、意見や考えを出し合い、問い続けながら研究を深めてきました。教職員が真剣に話し合う姿からはチームワークの高まりを、日々の授業の様子からは授業力の向上を感じました。

この2年間の積み重ねは、児童にとっても、私たち教職員にとっても大きな財産となりました。今後も「千川ラーニング」や2年間の研究で積み上げてきたことを継続し、さらに深めていきたいと思います。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり年間講師としてご指導を賜りました、東京学芸大学准教授鈴木聡先生、元東京都小学校体育研究会理事の梅原照二先生、武蔵野市教育委員会の皆様に心から感謝申し上げます。

## 【ご指導いただいた先生方】



東京学芸大学教育学部 准教授  
元小体研理事・元世田谷区立桜小学校校長  
横浜市立白幡小学校教諭

鈴木 聡 先生  
梅原 照二 先生  
玉置 哲也 先生

## 【研究に携わった教職員】



《29年度 教職員》

校 長	河村 祐好	副 校 長	小澤 香子
教 諭・1-1	景田 奈美	○教 諭・1-2	伊藤紗智子
○教 諭・2-1	小松 京子	主任教諭・2-2	荒井 剛
教 諭・3-1	杉山 賢三	○主任教諭・3-2	勝二 弘子
◎主任教諭・4-1	藤貫 純	教 諭・4-2	武田あかね
主任教諭・5-1	佐々木恵里	○主任教諭・5-2	竹内 英人
○教 諭・6-1	阿部 巧	主幹教諭・6-2	水上 卓哉
○主幹教諭・算数習熟度別	中垣 知美	教 諭・図画工作	福田 幸子
○教 諭・音楽	十時 弥咲	主任教諭・養護	伊藤 文子
都 事 務 主 事	中村 弘樹	市 嘱 託 事 務	高崎 靖子
市 嘱 託 事 務	鶴ヶ谷尚子	市 嘱 託 用 務	若山民比古
市 嘱 託 用 務	田原 雄一	施設設備管理(株)アズビル	萩尾 虎夫

◎…研究主任

○…研究推進委員

《28年度 教職員》

教 諭	白井 佑佳	教 諭	中村 亮太
教 諭	上野 達也	都 事 務 主 事	畠中江利子